

精華町教育委員会会議 議事録

令和 8 年（第 6 回）

- 1 開 会 令和8年6月23日（火） 午後2時00分
閉 会 令和8年6月23日（火） 午後3時00分
- 2 場 所 精華町役場 3階 301会議室
- 3 出席委員 川村教育長 松下教育長職務代理者
麻生委員 久保委員 高橋委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席事務局職員
松井教育部長
鵜澤総括指導主事
山崎学校教育課長
河西学校教育課担当課長（防災食育センター長）
小笠原生涯学習課長
高鍋学校教育課課長補佐
- 6 傍 聴 者 0名

7 議事の概要

（1）開会及び冒頭あいさつ

教育長から第6回教育委員会会議の開会を宣言。

（2）第5回教育委員会会議議事録について

教育部長から令和8年第5回教育委員会会議の議事録について説明。

【採 決】

- ・全員承認

(3) 教育長報告事項

5月29日に京都府市町村教育委員会連合会の総会と研修会が開催された。教育委員の皆さんにも出席いただいた。

6月8日から精華町議会が開催されている。一般質問、各常任委員会が終わりを、最終日は26日の予定だったが、追加提案議案があり日程延長が考えられる。ここまでの議会の概要は後ほど教育部長から報告する。

6月17日には精華町小学校陸上運動交歓記録会が、20日には山城陸上大会がいずれも太陽が丘で開催された。

今年は学校や子どもたちをめぐって全国ニュースになる事件や事故が相次いでいる。6月19日、東京都の小学校で音楽準備室から火災が発生し、児童教職員11人の負傷者が出た。火災の原因は、現在調査中であるが、避難経路が煙で塞がっていたというところが非常に怖い話であった。精華町の消防本部でも町立学校への安全点検を計画している状況である。

今後の取組を2点報告する。

1点目は、7月4日に1回目の精華町教育環境整備の在り方懇談会を開催する。懇談会では、本町の小中学校をめぐり、少子高齢化や新規住宅開発、学校施設の老朽化などの課題を踏まえ、教育環境整備の在り方という形での懇談会を開催し、約2年かけて今後の方向性について議論を進めていく予定である。

委員構成は、学識経験者や地域の代表者の方、小中学校長、学校運営協議会委員、保護者代表などである。

蔭山・水落、菅井・植田の2か所で住宅開発が行われ、これらの地域をどの小・中学校の学区にするかを検討する。検討対象となる川西小学校、精華台小学校、精華中学校、精華西中学校の学区ごとの児童生徒数の見通しと、新規開発地での児童生徒の増加見込み、各校の施設のキャパシティと学校までの通学距離などを踏まえ、意見交換をしていきたい。最終的には、教育委員会で通学区域規則改正を行うための意見交換をして決定したい。

懇談会について、以後は学校施設の長寿命化計画を踏まえた将来的な校

舎整備の在り方や、本町学校教育の今後の在り方、地域における学校として、町民の貴重な財産として学校の機能の充実を展望しながら、学校の整備の在り方をテーマにして意見交換を進めていく計画である。

2点目は、各校での授業改善を進めるため、「深い学びを追求する」を合い言葉に1時間ごとの授業というよりも単元で授業を設計する単元デザインに取り組んでいる。6月16日には各校の研究主任が集い、京都大学の元特任教授であった田中容子先生から、単元を通じてのパフォーマンス課題の設定など、授業づくりに関する指導をいただいた。次回は、7月31日に同先生による教職員向けの研修会を行う予定である。

（４）臨時代理の報告

議案第15号 令和8年度精華台小学校第2期便所改修工事請負契約の締結について

議案第16号 令和8年度精華西中学校第2期便所改修工事請負契約の締結について

（採決 ― 全員挙手により承認）

（５）事務局からの諸報告

教 育 部 長 1 町議会定例会6月会議について

定例会6月会議は、会期延長があるかもしれないが、6月8日から6月26日までの19日間で執り行われる予定で進んでいる。

教育委員会の対応状況は、議案等の関係について、補正予算が1件、臨時代理の報告であった契約議案が2件、工事請負契約変更の専決処分報告が1件で、計4件であった。

一般質問においては、16人の議員から質問の通告があり、教育委員会関係については8人の議員から質問があっ

た。主な質問内容は、町立学校の教育環境整備や学校の安全対策について、また学校給食の関係や、むくのきセンターの整備状況、さらには制服リユース制度についてであった。

また議会初日に教育長から1件の行政報告が行われた。

総括指導主事 1 生徒指導報告について

(1) 小学校

5月の問題事象は0件。

不登校の児童数は15名。

(2) 中学校

5月の問題事象は1件。

不登校の生徒数は26名。

小学校は若干の増加がみられ、ゴールデンウィーク明けの疲れ等々、環境の変化等が原因かと考える。

2 重災害事故報告について

5月の報告は4件。

全て小学校からの報告で、修学旅行中、体育の授業中、業間休み中のけがであった。

3 相楽地方中学校陸上競技大会の結果について

各種目5位までが上位大会の山城陸上大会に出場できるが、ほとんどの種目で5位までに入賞している生徒がおり、上位の大会でも活躍してくれることを期待している。

4 中核的概念（高次の資質・能力）に向かう単元設計の実践（UDICC）について

次期学習指導要領の改訂を見据えた精華町内小中学校の研究について、各小中学校から研究主任を招集し、年間を通し

た活動を行い、各校の研究推進の核となる研究主任の資質能力の向上と各学校間の横の連携を深めながら進めていく。単元デザインについての研究を各校の重点研究の柱に据えている。

令和 8 年度の活動計画としては、6 月 16 日には、京都大学の特任教授の田中先生にも実際に研究主任会へ指導いただく中で、単元構想の持ち方やパフォーマンス課題のつくり方についての指導をいただいた。

7 月 31 日にも教員の夏季全体研修会を計画しており、研究主任だけではなく精華町内の先生全体の資質能力の向上を図りたい。

【委員からのご意見】

麻 生 委 員 不登校の子を持つ保護者の会の開催はあるのか。また他の市町村在住の保護者も参加できるのか。

総括指導主事 毎月開催しており、6 月は 13 名の参加があった。7 月にも開催予定である。

現在参加されている方の中には、もともと精華町在住だったが、今は他市町村在住の方もいる。事前に代表へ相談していただくのが良いかと考える。不登校の子を持つ保護者の方が集まって、お互いの悩みなどを共有しながら、何とか子どもたちのためになることをしようという場なので、参加できるか確認しておく。

学校教育課長 1 教育環境整備の在り方懇談会について

7 月 4 日に開催予定で懇談会の内容は大きく 3 点ある。

1 点目は、新規住宅開発地をどの小中学校の学区に組み込むかについて、2 点目は小中学校区ごとの児童生徒数の見通し及び学校施設の長寿命化計画を踏まえた将来的な校舎整備の在り方について、3 点目は小中学校教育の今後の在り方や地域における学校の機能の充実を展望した学校整備の在り方

について。

まずは１点目について取りかかり、１点目が終われば２点目、３点目という順番で進めていく予定である。

各方面の関係者や開発の底地を持たれている地域の代表にお越しいただき、議論を進めていく。

会議の内容については、今後報告させていただく。

生涯学習課長 １ 行事の実施予定等について

夏の自習室の開放について、町立図書館は以前から常設であるが、今年度からけいはんな記念公園水景園観月楼の１階とむくのきセンターの第３会議室を夏の期間、自習室として開放する。

小中学校にチラシを配布し、町ホームページへも同様のものを掲載、けいはんな記念公園さんのホームページにも掲載いただいているところで、今後も広く周知に努めていきたい。

（６）後援関係

５月から６月にかけて受け付けた教育委員会後援事業は、総数９件、学校教育課関係は０件、生涯学習課関係が９件で、社会教育係の担当が９件、図書係の担当が０件、社会体育係の担当が０件となっている。

（７）７月の行事予定

主なものとして、まず７月１１日、１２日、１８日に相楽地方総合体育大会が開催される。

次に、７月１７日に小中学校の１学期の終業式が行われる。

教育委員に出席をお願いするものでは、７月１０日に相楽地方教育委員会連絡協議会の教育委員・教育長合同研修会が、７月１４日に今年度１回目の精華町総合教育会議が、７月３１日に市町村教育委員会研究協議会が開催予

定。

(8) その他

松 下 委 員 ① 5月29日から新たな防災気象情報の運用開始がされた。今までは全て警報と統一されていたものが、レベル別に分けられた。

ところが、暴風などは今までのように警報のレベルが付かない運用があるようで、学校が混乱しないようお願いしたい。今までは警報が出ると全て学校閉鎖であったが、どのレベルから学校閉鎖をするのか、学校がどれだけこのことについて認識しているのか、学校における防災対応などにも関係するが、今年度はどのように対応されたのか。

総括指導主事 警報については、5月29日からレベル別の警報が出るということで、事前に本町の危機管理室から情報提供があった。気象警報が発表されたときと地震が発生した場合の登下校についてという保護者への案内文書は、各学校から校長名で出している。河川氾濫と大雨と土砂災害、高潮についてはレベル別の警報があるため、基本的にはその4つについてレベル3以上の警報が発令された場合、またはその他の警報（暴風、波浪、大雪、暴風雪）が発令され、9時までに解除されない場合は臨時休校とするという内容に変更するよう、各校へ通知を出しており、保護者へも周知されている。

松 下 委 員 ② 文科省では、理科系が弱いということで強化をするために、全国の都道府県に国立、公立、私立大学に拠点校を決め、その都道府県の中の小中高校生を集めて、理系の指導の体制をつくる計画を今年度作り、来年度から実施するということである。拠点校は大学であるが、小中学生は公立も含まれるため教育委員会にも関係する。おそらく大学から話があるかと思うが、そういった情報があれば知りたい。また対象

となる公立の小中学生にどのように対応していくかなどもあれば知りたい。

教 育 部 長 そういう情報は今のところはない。現時点で詳細な計画などというのも、まだ把握していない。

精華町は科学のまちの子どもたちプロジェクトも行っているため、情報が入れば提供したい。

麻 生 委 員 参考であるが、5月29日の京都府市町村教育委員会連合会での講演の中に、高等学校教育改革促進基金を文科省が創設して、指定された高校が助成金をもらえるような取り組みをしているという話もあった。

ここでも、パターンの1つに理数科系人材育成支援というものがあった。

教 育 長 松下委員の話は大学の話になるので教育委員会ルートでは情報が入ってきていない。

松 下 委 員 ③ 部活動の地域展開について、文科省は現行の学習指導要領どおりにやっていこうという動きがあるのと、少しずつ手を引いて最初は国からの補助があるが、最終的には府や市町村へ負担がくるのではないかと気にしている。

周りの市町村の動きも把握しているか。夏の大会も迫っており、例えば、吹奏楽は既に地域展開をしているが、大会は各学校単位での出場である。平日と土日で異なる場所で練習をしているが、学校ではどのような指導をしているのか。大会へ向けて総合練習をしたり、スポーツでは、練習試合をしないとレベルが上がらないが、地域展開をすると土日のどちらかで地域の練習に行き、学校としては練習試合をしないとうことになるのか、他市町村の考えや動きなど状況はどうなっているのか教えてほしい。

今の日本はいろいろな競技が世界的なレベルになっているが、小中学校の部活動も非常に大きく関係しているので、根底から変わると、成績にも大きく影響すると思う。

総括指導主事 部活動の地域展開については、精華町スポーツ協会と連携しながら進めている。9月以降の土日は、運動部については、スポーツ協会に登録されている団体の中で協力してもらえる団体を募っている。そのためには、まず3中学校の運動場や体育館等の体育施設について、地域展開として活用するため場所や時間の調整をしている。中学校の部活動の顧問の先生方についても、兼職兼業で団体を立ち上げ、土曜日、日曜日に指導をしたいという方もいるため、集約している状況である。

文化部では、吹奏楽は各中学校で顧問の先生方に兼職兼業承認申請書を出してもらい、それぞれの中学校区で団体に所属していただく形で土曜日、日曜日の指導ができるよう調整中である。

競技力の低下等の問題や他市町村の地域展開の進捗を鑑み、例えば中体連主催の大会や、その他公式の大会の前2回ぐらいは学校として練習する機会があっても良いのではと考え、調整している。

地域展開について他市町村へ話を伺っており、民間の団体に声をかけて進めているところもあれば、なかなか進んでいないというところもある。

教 育 長 土日の部活動に関しては、今秋から移行する形を整える。

試合前については例外を設けようかということで、一旦様子見のような形になる。国の方針としては、6年先までに平日の活動も地域へ移行するとなっているが、全体的に見ても、なかなか進んでいない市町村も多いため、近隣の様子も見ながら進めることになるだろう。

ただ、例えば兵庫県ではどんどん進んでいるような動きも出ており、京都府の動きは割と小さい方である。

松 下 委 員 自治体の大きさにもよるところがある。大きい自治体では指導者自身の数も多いので、京都市などは結構進めているところもあるようだ。

しかし、精華町ほどの規模では指導者の問題も非常に厳しく、学校単位での活動がなくなっていくのかなというふうに言っている人もいた。

教 育 長 結局、地域展開をするかしないかに関わらず、部活動の数は減っている。精華中と精華西中の野球部が存続できなくなってきたので、今、スポーツ協会に野球チームを作ってもらえないかということで助けてもらっている部分もある。

地域展開や教員の働き方改革もあるが、それ以上に子どもが活動する部活動がなくなっている現実があるので、動かなければならないと思う。

松 下 委 員 その元になるのが適正な学校規模だと考える。精華南中のように、最初は学年で2クラスだったのが、現在は1クラスになっている。学級数が減れば教員数も減るという問題も大きい。精華中と精華西中は学級数があり、教員もいるが、じっくりと見ていかないと難しい問題である。

教 育 長 文部科学省としては、将来的な子どもの数が更に減ることで、部活動どころではなくなり、中学校のスポーツ文化が駄目になるのではないかという危機感を持ってやっている。特に、大都市はともかく、地方に行くほど、学校の規模が小さくなり過ぎてどうにもならなくなる。1つの自治体で1つの小学校、中学校を維持できない自治体がかなり出てきている。将来を見据えて少しずつ進める方がいいと思っている。

松 下 委 員 私の考えは、部活動というのは、コンクールや試合があり、必ず相手がいる。ある程度のレベルをつけていかないと、子どもの意欲などが減ることにも繋がるので、ある程度のレベルでやる必要がある。

そうすると、本当に今の形でいいのか。精華町だけの問題ではなく、山城地域や近隣の自治体の状況も含めて様子を見ながら動かないと、気付けば特定の町だけが異なる状況になっているということになりかねない。そのようにならないようにしてほしいと思う。

教 育 長 中体連の試合がどのようなになるのか現状では分からない。
平日の部活動も地域展開まで手を付ける前に、まずは土日の
地域展開の取り組みで立ち止まり、よく考えておくというこ
とでどうかと思う。

(9) 閉会

教育長が第6回教育委員会会議の閉会を宣言。